

## 15年間の在宅介護を支えて

島根県隠岐広域連合立隠岐島前病院  
看護師 家中ふみ代

隠岐諸島は島根半島から約 50~70km 離れた日本海に浮かび、島前と島後よりなる。島前は西ノ島、中ノ島、知夫里島の 3 つの島に分かれている。当院は西ノ島町に位置し病床数 44 床（一般病棟 20 床、療養病棟 24 床）を持ち島前の中核医療を担っている。当院の看護部は外来、病棟、訪問看護の 3 本柱で離島医療に取り組んでいる。

当院では平成 5 年度在宅で寝たきりの高齢者が仙骨部に褥創が発生し、家族から依頼されたのをきっかけに訪問看護を開始した。当初は褥創処置、入浴介助が主で午後より 2 名の看護師で訪問へと足を運び、1 週間に 2~3 件、年間 150 件あまりの件数であった。

平成 12 年度介護保険がスタートしてからはヘルパーと同伴訪問が可能となり看護師 1 名体制へと変更となった。対象も胃ろう、在宅酸素、気管切開、終末期と医療依存度が高い疾患を持つ患者が徐々に増えて行き、毎日平均 3~4 件、年間 800 件以上の件数となった。当院における訪問看護はスタッフ 4 名で構成され、外来に所属し午前外来業務、午後から訪問看護に携わっている。緊急対応も含め 24 時間 365 日体制をとっている。在宅で患者、介護者共に安心して生活して頂ける様に常に一人一人と向き合い、それぞれの看護を提供している。当院には療養病棟があり介護者が体調不良時の緊急時、レスパイトなどの入院にも対応可能で安心して介護に携われる体制となっている。

島前地区は現在高齢化率 39.8%で在宅での介護においても高齢者が高齢者を介護する事を余儀なくされている。その中で平成 10 年 3 月から平成 24 年 2 月までの 15 年間脳出血後遺症にて要介護 5 の夫を在宅で献身的に介護した妻との関わりを通して、介護とは何か、看護とは何か、在宅で看取る意義とは何か、など数多く考えさせられ学ばせて頂いた。看護師人生の半分を共に過ごしてきた夫婦との関わりが訪問看護師として成長させてくれたといっても過言ではない。よって 15 年間の関わりをここに報告したい。